乳嘴突起ノ含氣狀態ト粘液菌化膿症

Warzenfortszpneumatization und Mucos-
eiterung. von Dr. med. Helmuth Richter.
Zeitschrift für H. N. u. O. heilkunde. 25 Bd.
I. Heft. 1929.

是迄粘液菌中耳炎ニ關スル文献ヲミルニ、專ラ廣汎ナ含氣ヲ有スル顚顚骨岩様部ヲ侵シ、ソレニ依テ他ノ菌ニ依ル急性中耳炎トハ本質的ニ趣キヲ異ニスルト云フ。

之ト反對ニ又、粘液菌化膿症ハ岩様骨ニオコルガ、ソレハ含氣ガ多少妨害サレテキルト云フ。著者ノ臨牀ニ於ケル經驗モ亦大體同様デアル。即チ著者ハ急性中耳炎ノ經過中、乳嘴突起内及ビ突起外ノ合併症ノタメニ手術シタ例ハ一九二三—一九二九ニ二三五例アツタ、手術ノ際、乳嘴突起ノ内容物ヲ微生物學的ニ調べルト。

化膿性連鎖狀球菌	八九 (三九・六%)
粘液性連鎖狀球菌	八六 (三八・二%)
化膿性連鎖狀及ビ葡萄狀球菌	二九 (一一・一%)
肺炎双球菌	二
化膿性葡萄狀球菌	二
肺炎桿菌	一

雜 纂 乳嘴突起ノ含氣狀態ト粘液菌化膿症

培養ガ無菌ナリシモノ 三

コレラニ於テ粘液菌化膿症ハ高率デ文献上最高トスルフエーマンノ二五%ヲ凌駕シテキル。エッケルト・メビッースハ一二%デアル。更ニ粘液菌ト乳嘴突起ノ含氣狀態トノ關係ニ就テ、文献上左ノ如クデアル。

エッケルト・メビッースハ手術例二十三例中九〇%ハ頗ル廣汎ナ含氣ヲ示シテキタ。其中三分ノ一ハ理想的平常含氣デアリ、他ノ三分ノ二ハ、ソレヨリ少シ違ッテキル含氣デアルト云フ。二例ノミ含氣抑制ノ高度ナルモノヲミタ。

ヘッセハ八例ヲ報告シ一例ハ小氣胞性、一例ハ不規則性、一例ハ理想的平常性ノ含氣デアル。

ストッツハ乳嘴窩ハ含氣狀態廣汎ニ擴ガリ一方顚顚部ニ、他方後頭骨顚顚部ニ擴ガツテキルノヲ注意スベキコト、云フ。

ツェーマンハ二一例ノ手術セル粘液菌化膿症ニ於テ九例ハ含氣性、八例ハ板樟性、三例ハ混合型、一例ハ硬化性乳嘴竇デアルト。

ウィルトハ溶血性連鎖狀球菌ト粘液菌ト含氣狀態ニ依テ本質的ニ區別スルコトハデキヌト云フ。

フォーゲルハ高度ニ含氣セル乳嘴突起ヲ特ニ粘液菌ガ撰ブ譯デハナイ。二四例中九例ニ於テ含氣狀態廣汎ナル乳嘴突起デアルト。

著者ノ經驗ニ依テモ、ソノ手術統計ノ結果ハ粘液菌ガ專ラ廣汎ニ含氣セル乳嘴ヲノミ侵スト云フコトニ相反シテ居ルト思フ。即チ著者ノ八六ノ手術例ニ於テ三九・五%ハ明瞭ニ含氣抑制型デアル。

更ニ病的乳嘴突起ノ含氣狀態ハ八六例ニ於テ、他耳ノ含氣狀態トハ如何ナル關係ニアルカニ就テハ次ノ結果ヲ得タ。

- 一、病的側、含氣抑制型。健常側、理想型十例。
- 二、病的側、理想型。病的側、含氣抑制型七例。
- 三、兩側共、理想型、二七例。
- 四、兩側共、含氣抑制型、一五例。

含氣狀態ト年齡・著者ノ經驗デハ之迄發表サレタ報告ト殆ンド同様デ、即チ、ソノ頻度ハ年齡ノ増スト共ニ増加スル。而シテ五十代ガ最も多ク(二五例)、十歳未満ハ七例デアルガ、之ハ規則的ナ中耳分泌ヲ微生物學的ニ研索スル時ハ粘液菌ニ依ル乳兒及ビ幼兒ノ中耳炎ハ尙ホ多イモノト思フ。特ニ頻繁ニオコル年代ニ於テモ理想型ト含氣抑制型トガアル。

含氣狀態ト性、著者ノ例デハ男六五、女二一、男ハ女ノ二倍デアアル文獻上ハ五對一ガ多イ。ソノ含氣狀態ニ就テハ男女共特ニ撰擇のニ侵スコトハ認メラレナイ。

含氣狀態、乳嘴突起外合併症及ビ死亡例、乳嘴突起外合併症ハ四九人デ、次ノ六七アリタリシハ一部ハ混合シテキルタメデアアル。

- 二四、橫竇周圍膿瘍及ビ硬腦膜外膿瘍若シクハ兩方ヲ兼ネテ、
- 二四、骨膜下膿瘍。

一〇、S 字狀靜脈竇若クハ頸靜脈ノ栓塞。

六、腦膜炎(内一例ハ迷路炎ヲ合併ス)

三、ペツォルドニ依ル軟部ヘノ流注性膿瘍。

病的乳嘴突起ノ含氣狀態トソノアラハレタ乳嘴突起外合併症トノ間ニ、特殊ノ關係アリヤト云フニ 腦膜炎ヲ除イテハ理想型ト含氣抑制型トハ半分宛位デアアル。腦膜炎ハ男ハ五、女ハ一ノ割合デアアル。更ニ死亡例ニ就テハ著者ノ八六人中、六人ハ腦膜炎四、腦膜炎兼橫竇靜脈竇炎一、橫竇靜脈竇炎一、ソノ含氣狀態ニ對スル關係ハ前述ノ通りデアアル。

ウィルトニ從ヘバ、

一、一樣ニ分配サレタ中等度大及ビ小ナル氣胞ヲモツ乳嘴突起ハ經過良好。

二、頗ル大若シクハ、廣汎ニ擴ガレル氣胞ヲモツモノハ經過大シテ良好ナラズ。

三、不平等ニ分配サレ、色々ナ大キサノ氣胞ヲモツモノハ經過不良。

四、抑制型ニ於テ大ナル空洞ヲ有スル乳嘴突起ハ經過特ニ不良。

著者ノ第四十三例ハ同様デアツテ即チ明瞭ナ抑制型デ乳嘴竇ニ近ク二、三ノ氣胞モ同様デアリ、更ニ橫竇靜脈竇、硬腦膜ニ達スル融解セル空洞アルコトヲ發見シタ。

含氣狀態ト粘液化膿症ノ發生、エツケルト・メビュウスハ粘液菌ノ定着スル場所ニ就テ總括シテ曰ク「粘液菌傳染ハ連鎖狀球菌及ビ肺炎双球菌ト反對ニ高イ、血管ノ多イ粘膜ニハ粘着シ難イ。扁平ナ、ヨリ内皮細胞様ノ粘膜且ツ血管ノ少イ含氣性内皮細胞ニ粘着シ易イ。」ト之ト反對ニヘッセハ曰ク、粘液菌傳染ハ大抵末梢部ニアラハレ特ニ

平常含氣狀態ニアラハレルガ、ソレハ乳嘴突起ノ末梢部ニハ更ニ進ミユクベキ含氣經過ノタメ肥厚性粘膜が生ジテキルタメデアル」トエックルト・メビュウスト反對ノコトヲ云フ。著者ハ自己ノ經驗カラ後者ニ賛成スルモノデアル。

總括

一、過去六年間手術シタ二二五例ノ急性症例中粘液菌化膿症ハ八六例即チ三八・二%デアル。

二、之等ノ中、五十代マデハ頻度ハ年齢ト共ニ上昇シテキル。十歳未満ハ八・一%。

三、男ハ女ノ三倍デアル。

四、三七例ハ上氣道ニ以前カラ若シクハ同時ニ加答兒ガアツタ。

五、兩側共ニ侵サレタノガ四例、右側ノミガ四八例、左側ノミガ三四例。

六、四九例ニ於テ(五七%)ニ於テハ少ク共、乳嘴突起外合併症アリ。

七、死亡率ハ七%デ、即チ八人、ソノ中二人ハ内科的ノ疾患デ死シタ。

八、理想含氣ハ五〇例(五八・一%)、明瞭ナ含氣抑制型ハ三四例(三九・五%)

九、兩側ノ含氣狀態ガ殆ンド同様ナノガ、七一・二%、ソノ中一五例ハ抑制型。一七例ハ一側ニ於テ抑制型(二八・八%)ソノ中一〇例ハ一側ニ於テ病的ノ側ガ抑制型デアル。

一〇、乳嘴突起外合併症ヲモツ四九例ハ理想含氣型ト含氣抑制型トハ略々同數デアル。

一一、六人ノ合併症デ死亡シタ患者中、五人理想含氣型、一人ハ含氣抑制型。

一般ニ著者ハソノ經驗カラ粘液菌化膿症ノ際ノ含氣狀態ニ關シテ、コノ菌ハ他ノ菌ト特別ノ區別ヲ示サナイ、併シソノ粘膜狀態ヨリスレバ理想含氣岩樣骨ノ内皮細胞樣ノ被覆ヨリモ高イ血管ノ多イ粘膜部ニオコリ易イ。(丸山抄)

扁桃腺結核ニ對スル報告

Mitteilungen zur Tuberculose der Tonsillen.

von Dr. Aladár v. Tóth, Budapest.

Monatsschrift für Ohrenheilkunde und Laryngologie. 64. Jahrg. 11. Heft, November 1930. S. 1315.

最初ノ扁桃腺結核ハ一八八四ニストラスマン(Strassmann)ガ之ヲ記載シテ居ル。以來此報告ハ多數有ルガ、統計的數字ニ就テハ區々トシテ一定シテ無イ。例ヘバ Broca 氏ノ〇%(一〇〇例中)ヨリストラスマン氏ノ六四%ニ至ルガ如ク、更ニハ Dmochovsky ノ一五例、一〇〇%ニ至ル迄アル。是等ノ結果ノ不定ナル理由ハ一ツハ患者ノ種類ガ異ル爲、又一方ニ於テハ檢索方法ガ異ル爲デアル。余等ハ六五例ノ病理解剖的材料ヲ研究セル外、他方ニ於テハ三五例ノ摘出セル扁桃腺ヲ、即チ都合セテ一〇〇例ヲ檢查シタ。而シテ